

平成13年11月20日

## ロシア極東の低レベル液体放射性廃棄物処理施設の引渡しについて

1. ロシア極東の低レベル液体放射性廃棄物処理施設（通称：すずらん）の引渡式は、11月22日（木）、ロシア極東ウラジオストク近郊のポリショイ・カーメニにおいて行われる。この処理施設は、わが国の資金協力により建設されたものである。
2. この引渡式には、高松明在ウラジオストク総領事がわが国政府を代表して出席するほか、外務省より加藤元彦科学原子力課長ほかが参加する予定である。また、ロシア政府よりも原子力省高官（次官級）等が出席する予定である。
3. この施設は、1993年（平成5年）、ロシアの日本海への放射性廃棄物投棄を防止するための日露間の協力として実施することが決定され、翌94年から、日露核兵器廃棄協力委員会に対し拠出した資金（注）の一部を用いて建設されたもの（総事業費は約42億円）。本施設は、露極東地域に貯蔵されている液体放射性廃棄物および極東での原子力潜水艦解体に伴って生じる液体放射性廃棄物を、年間7,000立方メートル処理する能力を有しており、日本海における放射性廃棄物の海洋投棄を将来にわたり防止する上で大きな役割を果たすことが期待される。

### （注）日露核兵器廃棄協力委員会

わが国政府は、1993年4月、旧ソ連の核兵器廃棄を支援するために総額約1億ドル（117億円）の協力を行うことを発表。また、1999年6月、ケルン・サミットにおいて、追加的に134億円の資金手当を行った。これらを受け、1994年3月までに、ロシア、ウクライナ、カザフスタン、ベラルーシそれぞれとの間で核兵器廃棄協力に関する二国間協定を締結し、各核兵器廃棄協力委員会を設立。なお、拠出総額のうち、日露核兵器廃棄協力委員会に対しては、合計約204億円が配分された。